

～SUPER GT INTERNATIONAL SERIES IN MALAYSIA～

マレーシア・セパン キーパープロショップ
スーパーGT参戦録



スーパーGTの第3戦は海外戦!!
マレーシアのセパンサーキットで行われました。
レースの熱い戦いの様子取材しました!

この時期のマレーシアの気候は、赤道直下の太陽の下。気温34℃前後、湿度80%以上と「暑い」の一言。セパンサーキットは、リゾート地の一角のような広く自然豊かな雰囲気の中に、東南アジア屈指の経済都市であるクアラルンプールらしい近代的な建物がうまく調和している素晴らしいところだ。



▲レース会場を盛り上げたのは、東南アジア諸国を中心にヨーロッパからも集まったスーパーカーの集団。その数、なんと405台!



6月18日(土)は予選ラウンドが行われました。私たちキーパーが応援しているD'STATION KeePer SC430は、灼熱のセパンサーキットでのレースを見据え、固めのタイヤをチョイスし渾身のアタック。予選10番手で明日の決勝レースを迎える結果となりました。



翌19日(日)、日本での決勝レースの場合、開始時間は原則午後2時。しかし、ここは灼熱のセパンサーキット。少し気温が下がり始める午後4時が決勝レースの開始時間。

そこでサーキットでは決勝レースの開始時間までいろんなところで様々な催し物が開催され、『車が好き』『レースが大好き』のサーキットに集まった多くの観客を楽しませ、盛り上げていました。



▲私たちが負けてはいけません!今回は「特大のぼり」を用意しての応援。セパンサーキットで1番の大きさ!



▲赤道直下、灼熱の太陽から車を守るため、クリスタルキーパーをしっかりと手入れしました。

メインスタンドは、いつの間にか観客でびっしり! その数なんと36,000人。昨日よりも確実に上がっている気温に加え、観客数、さらにはその熱気、そして決勝レースの緊張感、その全てが混ざり合い、この日のセパンサーキットは、世界中で一番「あつい」場所だったかもしれません。

そして、いよいよ決勝レースがスタート。D'STATION KeePer SC430は、10番手からのスタート。まずハンドルを握るのはアンドレ・クート選手。タイヤが温まるにつれ、ペースを上げていくクート選手。着実に順位を上げ、8位へアップ!



その後、5位から8位までがピタッとくっついた状態でのバトル。どのくらいの時間だったでしょうか…。まさに息を呑む展開。気付けば、もうレースの半分が終ろうとしているところ。各チームが続々と予定のピットストップをしていく中、2位へ浮上。そして、25週目、運命のピットイン。ここでドライバーが脇阪選手へ代り、上位が狙える展開へ。そんなシチュエーションに関係者一同、期待に胸躍らせていました。



しかし、給油装置をさし間違えるという単純なミスにより、燃料を入れるのに手間取りそのタイムロスにより、脇阪選手がコースへ戻った時はまさかの最下位という展開に…。

それでも脇阪選手は諦めることなく、最下位から気迫の猛チャージを開始!まずは34周目、14位とし、続く35周目には13位、燃費重視で走る脇阪選手は絶妙なコントロールでラップタイムを落とさずに走行を続け、41周目には12位、残り周回数を全力でアタックし、ついに42周目には2台を一気にオーバーテイク!これで見事10位ポイント圏内へと復帰。さらに順位を上げるべく、前車を2秒も上回るタイムで走行を続けたが…。残念ながらトップを行く46号車がチェッカーを受けレースは終了。ピットストップのトラブルが悔やまれるがなんとかポイント圏内の10位でレースを終えることとなりました。

脇阪選手の強い気持ちとさすがの走りで今シーズン「初」のポイントを掴み取りました。最後は、あれだけ強く照っていた太陽も「お疲れさま」と言わんばかりに、やさしく照らしてくれていました。次こそ歓喜の輪を! 感動を!!

